

2017年に20周年を迎えるに当たり



PHJ 理事長 小田 晋吾

ピープルズ・ホープ・ジャパン (PHJ) の前身、プロジェクト HOPE ジャパンは1997年1月に設立されました。来年2017年1月に20周年を迎えます。

この間に2006年1月にはPHJとして、独立・名称変更し、東南アジアの母子保健環境の向上を教育を通して改善していくことを主なミッションとし、タイ・インドネシア・カンボジア・ベトナムにおいて活動を行ってまいりました。また2015年からはミャンマーでも事業を開始しました。

タイでは障がい児のリハビリ支援・小児先天性心臓病手術支援・HIV/AIDS 予防教育・子宮頸がん・乳がん検診推進事業、ベトナムでの乳がん早期発見事業が大きな成果を収め、受益者の皆様から感謝の言葉とともに、現地で自立してこれらの活動を推進していく意志も表明されています。

インドネシアでは活動地での10年にわたる母子保健・地域保健医療強化・栄養改善教育が終了し、現地でこれらの事業を継続することが確認されています。現在、新たな地域で母子保健改善教育を始めるための手続きを行っています。

カンボジアでは2年前にコンポントム州での10年間の母子保健改善事業を終え、その成功とノウハウを活かしてコンボンチャム州で地域保健・医療体制の強化に取り組んでいます。

2015年3月に開設したミャンマー事務所では、救急搬送システムの改善、助産診療センターの建築、地域

保健医療状況の調査を行い、他国での経験も踏まえて質の高い支援活動を行っていく予定です。

東京にある本部は、東南アジアでの活動を行うためのバックオフィスとして募金・海外事業戦略・広報・管理機能を果たしてきました。この状況は2011年3月11日に起こった東日本大震災で大きく変わり、PHJは東日本大震災の緊急支援と復興支援をミッションの一つとして取り組むことを決めました。現在も気仙沼、石巻、多賀城で被災した医療機関の復興支援と被災者の心のケアのための支援を行っています。

貧困や医療システムの不備などが原因の医療アクセス問題は国、企業レベルで取り組んでいますが、開発途上国において人々の健康維持と医療レベルの向上を根付かせるには、国や企業の支援だけでは埋めきることは出来ず、地域に密着した草の根活動がなくてはなりません。

PHJは「すべての人々に健康と希望を」という目標のもと、途上国の人々の自立にむけて「保健医療の教育」を通じて地道に継続した支援活動を行ってまいります。これらの活動をまとめた20周年誌を今年の8月に皆様に配布すべく準備をしております。

最後に、今日までPHJの諸先輩が残して下さった足跡を次の20年に生かすべく、スタッフ一同心を一つにして活動に取り組み、ドナーの皆様、レシピエント、そしてPHJと共に喜びを分かち合えるよう一層の努力をしまっている所存です。

これまでの皆様のご支援に感謝いたしますとともに、これからもご協力をお願いいたします。

第52回運営委員会を開催しました



2015年11月25日 (水) 17:00-19:00
東京 水道橋にある全日本病院協会の会議室でPHJの第52回運営委員会を開催しました*。2016

年度に就任された委員2名を含む8名の運営委員とオブザーバー1名・PHJスタッフ16名が出席しました。

インドネシア、カンボジア、ミャンマー事務所長からそれぞれの活動報告、東京本部によるタイ・ベトナム活動報告について、運営委員から質問やアドバイスを頂き、活発な意見交換ができました。東日本大震災復興支援、自販機での寄付、カレンダー募金についても報告されました。

* PHJの運営委員会は年2回 5月と11月に開催し、理事会・総会は8月に開催しています。



タッコンの農村部

PHJ ミャンマー事務所は、タッコン郡で母子保健改善のための保健機能強化事業を開始しました。事業地の様子をお知らせします。

タッコン郡はネピドーから北へ車で約1時間程の場所にあります。人口約20万8千人、市街地の人口約3万1千人、農村部の人口約17万7千人と8割以上の住民は農村部で生活しており、PHJの活動は主にこの農村部に住む妊産婦さんを対象としています。

住民のおおよそ9割ほどの人が仏教を信仰し、信心深い方が多いというのも特徴の一つであり、生活の中に仏教が溶け込んでいる様子を目にします。街中では袈裟を着たお坊さんをよく見かけます。PHJが助産診療センターの建築を進める際にも、村のお坊さんが取りまとめ役として話合いの場に参加することがありました。

タッコン郡の中でも、PHJの事業地になる農村部



村のお坊さん

では、医療が行き届かない村もまだ数多くあり、我々が助産診療センターの建設や搬送システムの強化、母子保健教育の普及などを通して、村の妊婦さんが安全なお産ができる体制を整えることは、住民から期待されており、非常にやりがいのある仕事だと感じています。



タッコンのマーケット(野菜・魚・鶏など種類は多い)

私の印象ですが、タッコン群の住民の多くは保健センターのスタッフや村役場の人々を含め、非常に温厚な方が多く、外部の人間を気持ち良く受け入れてくれると感じています。

毎週、事業地を訪問する度に、住民の皆様の期待に応えたいとの気持ちを強くしています。

ミャンマーの農村部ではまだまだ支援を必要としている地域が数多くあります。今後もPHJミャンマーへ、皆様のご支援をお願いできればと思います。

ミャンマー事務所長 真貝 祐一



高床式の家が多い

PHJタイは、先天的に心疾患を抱え手術を必要としていながらも経済的な理由などから手術を受けることが出来ない子供たちを支援するため、1998年に当事業を開始し手術支援を行って来ました。多くの企業様やドナー様に温かいご支援を頂き、これまでに400名を超える手術支援を実施することが出来ました。

事業を開始した1998年当時は、連携している医療機関であるチェンマイ大学病院で手術を待つウェイティングリストには300～400名の子供が名前を連ねていました。非常に多くの子供たちが手術を待っていた理由として、経済的な理由に加えて、医療技術の問題も大きな要因でした。子供の心臓手術を担当できる医師が少なかったこと、手術前後の看護に関する専門的な知識を持つ看護師が少なかったことが挙げられます。そこで、PHJは手術の支援に加えて、看護師の研修にも力を注ぎました。小児心臓病に関する知識や、術前術後の看護に関する専門的な知識を学ぶため、毎年数名の看護師をバンコクなどに派遣し、集中講座を受講する支援を行って来ました。2004年には中国で開催された国際看護学会に11名の看護師を派遣した



診察を行うチェンマイ大学病院の医師



手術後1年で元気になった子供とおばあさん

こともあります。

また、この他に都市部以外の医療水準が高くない地域で専門医による移動検診を行っています。地方の病院では小児心臓病に関する正確な診断がくだせないためです。チェンマイ大学病院の医療チームが機材を持ち込んで検診を行うため、地方病院の医師にとっては実地研修を受けられる機会としてとても喜ばれています。

現在ではタイの医療水準も高まり、事業開始当時はチェンマイ県近郊で小児心臓病手術を行えるのはチェンマイ大学病院が唯一でしたが、2010年にはランパン病院でも実施出来るようになり、現在ではこの他に幾つかの医療機関が小児心臓病手術を行えるようになりました。今後はさらに多くの手術が可能になると期待できます。

チェンマイ大学病院で手術を待つウェイティングリストも大幅に減少しており、PHJがこれまで行ってきた活動が大きく貢献していると考えます。

タイ事務所長 ジラナン・モンコンディー

2015年10月、コンボンチャム州での3年事業の1年目が終了しました。事業目標に「保健行政区を中心に地域保健システムが機能することにより妊産婦や乳幼児が適切な保健サービス（継続ケア）へアクセスできる。」を掲げ、保健センターやそれを管理・指導する立場にある保健行政区を対象に支援を実施しました。

本事業は、以下の4つの柱を中心に展開しています。

1. 地方行政（保健行政区）能力強化
2. 保健人材能力強化（助産師）活動
3. 保健施設の機能強化活動
4. 地域住民の意識向上活動

今回は3番目の保健施設の機能強化となる保健センターを対象とした活動について報告します。この活動には、保健ボランティア会議、保健センターに対する設備支援、保健行政区スタッフによる保健センターに対する訪問指導等があります。保健ボランティア会議については、保健センターと村との協働を促進することを目的として、毎月、各村の2名のボランティアに集ってもらい、保健センタースタッフも参加して、村での保健に関する問題を共有したり、センターのサービスや運営をより良くするために話し合いを行いました。

また、保健センターに対する設備支援として、モデル

センターの壁のペンキ塗りを行いました。3つあるモデルセンターのうち1戸は、建物が古く、壁のペンキがほとんど剥がれ落ちている状況でした。そこで、見た目にも魅力的なセンターになるよう壁を塗り替えた結果、見違えるように明るくなりました。



保健ボランティア会議の様子

その他、PHJとして初めての取り組みとなる保健行政区スタッフによる保健センターに対する訪問指導を実施しました。毎月、保健行政区スタッフがPHJスタッフとともにモデルセンターを訪問し、衛生状況や器材管理状況をモニタリングし、指導を行いました。

これらの活動を続けてきたことで、見た目にも変化が見られるようになりました。例えば、保健センターの衛生環境が改善されてきたり、スタッフがきちんと白衣を着て、時間通りに出勤する等規律が改善されてきています。ただ、1年目はPHJスタッフが活動を主導してきたため、2年目はより保健行政区スタッフや保健センター長が活動を主導する形を目指して支援を実施します。

カンボジア事務所長 市原 和子

カンボジアスタディツアーを開催しました

PHJでは広報の一環として、事業現場を見学するスタディツアーを開催しています。ツアーは、PHJの活動を見るまたとない機会であるだけでなく、現地の医療機関の様子や農村部に住む人々の生活を知る機会でもあります。国際協力の活動について理解するには、村人が住む生活環境も含め理解することが不可欠ですが、スタディツアーでは直接目で見て、村人から話を聞くこともできるので活動への理解は非常に深まります。



保健スタッフ、保健ボランティア、PHJスタッフと記念撮影

毎年夏には、埼玉大学の社会調査授業の一環としてスタディツアーを開催しています。開催5回目となる2015年にも、最貧国のひとつに位置付けられながらも経済

発展著しいカンボジアに行ってきました。学生たちは事前学習を行い、調査テーマをグループごとに設け、村に行った時に村人に対してインタビューを行いました。今回はリプロダクティブヘルスが主テーマで、2グループが「村人の健康戦略」と「結婚と育児」について調べました。

カンボジア・ツアーは首都プノンペンから始まり、PHJ活動地のコンボンチャム州、最後に世界遺産アンコールワットのあるシェムリアップへというコースです。学生たちは、政治経済の中心地プノンペンの繁栄、コンボンチャム農村部の素朴な生活の大きな差に驚きながらも、それぞれの地に住む人たちの幸せって何だろうと考えながら調査を行いました。英語を使ってのインタビューには苦心していましたが、情報収集、データ分析、発表資料の作成をこなし、短時間で多くのことを学びました。



村人の家でインタビューする学生

調査を行い、現地の人の前で発表する達成感も大きなものですが、何よりも学生たちが感激したのは村の人たちの温かい歓迎でした。言語も文化も違う訪問者に心を開いて彼らの生活を語ってくれたという経験は、学生にとって貴重なものでした。このように、スタディツアーは生活様式や価値観の多様性に気付き、相手の立場に立って考える貴重な機会です。PHJでは引き続きツアーを開催し、このような機会を提供していきたいと思っています。

海外事業部長 中田 好美

「私たちの健康づくりがPHJさんを通じて東北の方々に広がる喜び」 賛助会員 武井 悠桂



こんにちは。万人のための健康ヨガ普及団体「オアシスヨガプレイス」を主宰している武井です。PHJ スタッフの横尾さんがヨガに入門されて10年になります。その活動を拝見しているうちに月に一度、新高円寺・智光院にて毎月第一土曜日、朝8時～9時30分に開催している朝ヨガの収益金(参加費一人500円)を僅かばかりですが東日本大震災の復興支援に寄付させていただいています。あれから4年が過ぎました。目に見える復興は進んでも、被災者の方の心のケアは4年では解決できないものかもしれません。PHJさんの活動は被災者の皆さんの心に寄り添うものであると知り、私たちが早朝、呼吸を深め体の隅々を健康にしてゆくアクティビティが、そのまま生きた形でPHJさんを通じ東北の方々の不備のある点に届けば嬉しい限りと思っております。特に病院の設備の充実、津波で流されてしまった命を預かる場の復旧が一番重要なことと思います。横尾さんから活動の報告を肉声でお聞きするたびに、笑顔になっている方が確実にいらっしゃる事が純粋に嬉しく感じます。

私たちがヨガをして健康になって、お目にかかることはできないけれど、東北の誰かにその元気が少しでも届いていればお互いが幸せです。ボランティア活動は両者の喜びであること、そんなことを丁寧な活動報告の中で教えていただきました。

東日本大震災のその後はマスコミでも放送される時間は減りましたが、被災者の方の生活の中の細かな不備、心の喪失感等のフォローに関して小まめに足を運び、生きた声を通じ、痒いところに手が届くPHJさんの活動に頭が下がる思いです。私は現地で実際の行動はできない現状ですが、これからは安らぎの源であるお寺でのヨガの活動を通じ僅かばかりですがご協力させて頂ければ嬉しい限りです。「お寺で朝ヨガ」は予約不要、初心者の方も楽しんでご参加頂けます。是非お気軽にご参加下さい。

(お問い合わせ oasis_yoga@yahoo.co.jp)

ありがたいことに最近、とても参加者の方が増えております。毎月、健康な体、心の土台をつくる気持ち良いヨガを行った後、参加者一同の気持ちがこれからも東北に届きますように。

今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

東日本大震災復興支援(近況報告)

大震災発生からまもなく5年が経とうとしています。人々の記憶からも少しずつ薄れてきているようですが、これからも被災地の復興に寄りそった支援が大切かと現地を訪れるたびに感じております。

PHJが震災発生直後から支援を続けております気仙沼は今、安全な高台に造られた災害公営住宅が完成し、仮設住宅からの移転が始まっておりますが入居に際して新たな問題も発生しております。住宅環境が変わることへの不安、新しく発生する費用負担(家賃)、漁業関係者の仕事場への不便さ等で移転は中々進まないようです。しかしこれまで空地であったところに大型スーパーや商店が増え、街には明るさが戻っております。そしてPHJが支援を続けております小規模の医院やクリニックも患者が増え順調に復興しております。PHJはこれからも気仙沼市医師会を通して病院設備の充実や新たに再建を目指している先生への支援に皆様からいただいた災害寄付金を使っていきます。

一方、特定のドナー様から5年の期限付きでお預かりした災害寄付金があり、このお金は石巻と多賀城に使わせていただいております。

石巻は石巻市立病院開成仮診療所と隣接する包括ケア

センターに、ドクターカーと医療機器のメンテナンス費用の支援、さらに来年夏に石巻駅前完成する新石巻市立病院の医療設備品の支援に残っている寄付金を使っていきます。気仙沼と同様に部屋から出たがらない仮設住まいの高齢者へのケアが重要になっており、PHJはこれまでのように診療所長の長先生とご相談しながら医療関連の機器や備品等の支援を続けていきます。

また多賀城腎・泌尿器クリニックは大きな被害にも拘らず復興が早く、既に230床のベッドは常に満床の状態です。PHJが寄贈した透析治療用医療機器類も順調に稼働しております。クリニックと相談し、今後は多賀城市でまだ復興途上の他の医療機関への支援も考えております。

東京事務所 横尾 勝



完成した災害公営住宅(気仙沼)



2016年夏完成予定の新・石巻市立病院



多賀城腎・泌尿器クリニック

● 各種イベントの終了報告 ●

● グローバルフェスタ JAPAN 2015

日時 2015年10月3・4日 10:00-17:00

場所 お台場 センタープロムナード

展示内容 アジアの動物カレンダー2016、カンボジア・インドネシアでの母子保健改善活動、タイでのHIV/AIDS予防教育

講演 PHJ 中田海外事業部長による「今日からできる社会貢献—アジアの母と子を笑顔にするために」

● 目白大学学園祭での講演

日時 2015年10月24日

場所 目白大学

● むさしの国際交流まつり

日時 2015年11月15日 11:00-17:00

場所 武蔵境スイングビル 11F

展示内容 アジアの動物カレンダー2016、PHJの母子保健改善活動、タイでのHIV/AIDS予防教育、多言語紙芝居(「おおきなかぶ」のインドネシア語担当)

お知らせ

*ホープジャパンニュースを郵送でなく、PDFでお受け取りになりたい方は info@ph-japan.org までお申し込みください。次号よりメールに添付してお送りいたします。